

噂によると生野での採掘は 807 年に始まったそうである。文献では生野鉱山は 1,000 年以上存在してきたことを確認することができる。それは日本の銀山の上位 5 つの中に位置していた。そして 1868 年明治政府はそれをダイナマイトの使用のように近代産業技術の履行のために選んだ。鉱山の専門家であるジャン・フランシスク・コワニエ(1835 – 1902)を含んだ数名のフランス人技師が鉱山を近代化するために雇われた。もう一人のフランス人のレオン・シスレー(1847 – 78)は鉱山と姫路港を結ぶ既存の小径を新しいマカダム道路に代えるよう設計した。銀の馬車道(銀山の馬車道) (現在は銀の馬車道として知られている生野鉱山寮馬車道) が 1876 年に完成し、馬車による鉱石の輸送がはるかに速くなった。朝倉盛明(1843 – 1924)はフランス人技師たちの翻訳者となり、のちに鉱山の初代監督になった。

1896 年に、政府は生野鉱山を三菱という会社に売却し、三菱は 1973 年までそこで操業を続けた。その翌年鉱山の一つの層が訪問者のために改築された。展示品には採掘の道具と親しみを込めて「銀山ボーイズ」と呼ばれる多くの作業員のマネキンがある。鉱山を出た所にはインフォメーションセンターと江戸時代(1603 – 1867)に行われたように鉱石を精製する過程を説明する少し小さい建物がある。